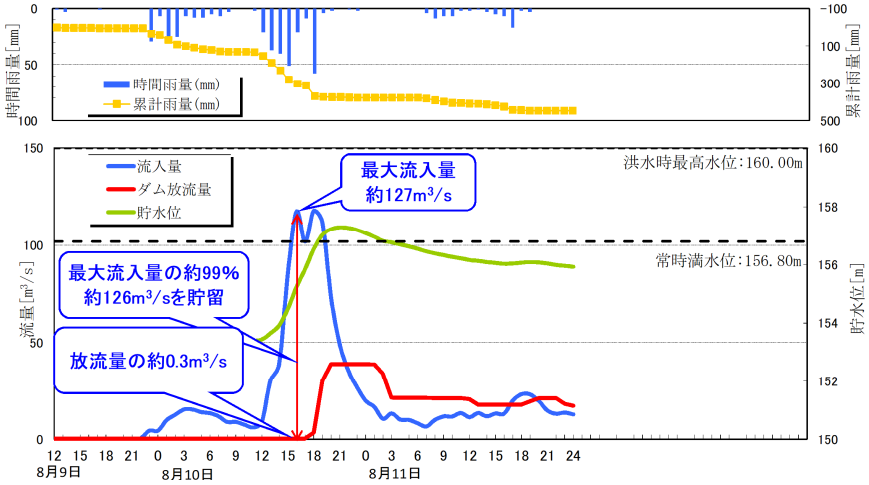
令和7年8月9日からの大雨 ダムによる洪水調節や河川改修による治水効果 （福岡県紫川水系紫川） 速報値

■福岡県では、8月9日夜遅くから11日夕方にわたり相次いで6回の線状降水帯が発生し、最大累加雨量633ミリを観測、紫川流域でも猛烈な雨が降り、頂吉（かぐめよし）雨量観測所で24時間雨量が448ミリの記録的な雨量を観測。
■紫川上流において北九州市街部に大きな被害をもたらした平成21年、22年7月豪雨を上回る雨量を観測したが、堰改築や河道掘削を実施してきたことから紫川の氾濫による被害は生じなかった。また、ます渕ダムによる洪水調節を実施したことにより、桜橋付近（8.0k地点）において河川水位を約41cm低減させた。

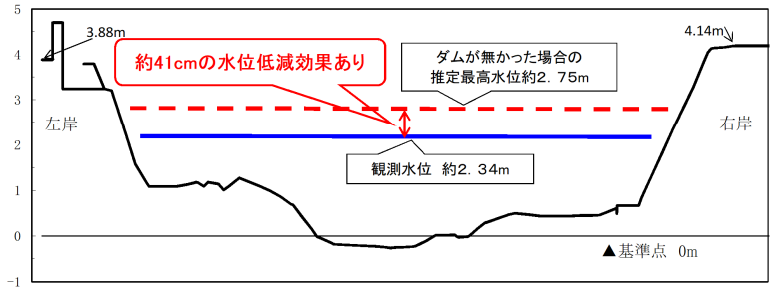


◇ます渕ダム流入ハイドログラフ

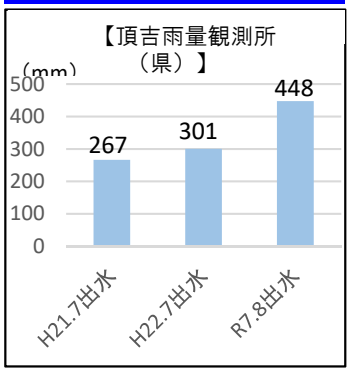


※速報値であり今後内容を変更する場合があります。

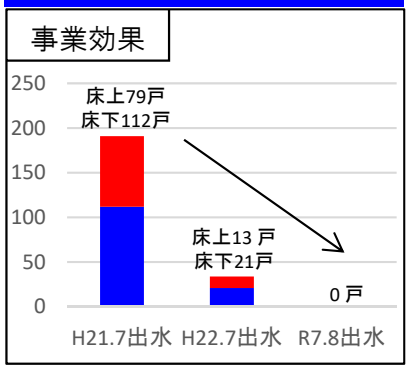
◇桜橋水位局地点の水位比較



雨量比較（24h雨量）



広域河川改修事業の効果



◇紫川 整備状況

